

しもつけ文化財探訪

第18回 日光道中石橋宿

今月は日光道中石橋宿を探訪します。

日光道中は、東海道・中山道・甲州道中・奥州道中とともに「五街道」と呼ばれる江戸時代の幹線道路のひとつで、江戸日本橋を起点として日光に至る道です。この道は、江戸時代に徳川将軍家の日光東照宮造営にともない、材木や資材の運搬を目的に整備され、その後は将軍家の日光東照宮参詣（日光社参）や、諸大名・武家の参詣のほか、庶民の参詣や通行、荷物の輸送などに使われました。道中には最初の宿場である千住から日光の鉢石まで21の宿場がおかれ、旅人の宿泊や人馬による荷物の輸送のための本陣・脇本陣・問屋・旅籠屋が整備されていました。

石橋宿は日本橋から数え15番目の宿場で、江戸時代末の天保14年（1843）の記録によれば、宿内の町並みが南北5町28間（約600m）家数が79軒（うち本陣1、脇本陣1、旅籠屋30）、人口は414人（男192人、女222人）となっています。大部分の人々は百姓をしていましたが、大工・山伏・仏師・桶屋・紙すきなどの人々もいたという記録が残されています。また、宿内には開雲寺があり、将軍家光が境内に御殿所を設けて日光社参の際の休泊所としましたが、後に火災にあい、宇都宮城主奥平忠昌が再建してからは、将軍の日光社参の小休所にあてられました。開雲寺には御成御殿の描かれた境内図、徳川家の紋入りの絵符（荷物につける木製の札）、茶釜など将軍の社参に関する資料のほか、奥平忠昌が寄進した石灯籠も残されています。



開雲寺

この開雲寺には明治維新の際に設置されていた日光県の知県事役所（現在の県庁）が慶応4年（1868）からの一時期置かれていました。明治2年（1869）には日光に役所が移され石橋は出張所となり、明治4年（1871）の廃藩置県に伴い栃木県が設置されるまでの短い期間でしたが、この時期の栃木県の行政の中心的な役割をはたしていました。

現在の石橋宿は、本陣・脇本陣などのかつての町並みは失われていますが、一部に旅籠屋として使われたと考えられる建物が残されているほか、開雲寺にもかつての宿場の雰囲気を感じることができます。

問い合わせ先 文化課 ☎52-1120 次回は「三王山上野原古墳」を探訪します。

歴史とロマンの下野市を描こう

第7回グريم絵画展募集概要

市内には、自然豊かな公園や文化財などが多く点在しています。多くの皆様にこの“歴史とロマンの下野市”を知っていただくため、またふるさと“下野市”を再発見していただくために、昨年に引き続き下野市の風景画及び下野市をイメージした風景画作品を広く募集します。なお、入賞・入選作品はグريمの館に展示されます。たくさんのご応募お待ちしております。



第6回大賞作品「盛夏の干瓢畑」
小林敦子（佐野市）

- テーマ 下野市の風景
- 種目 絵画（日本画、洋画、水彩画、版画など材料・用具は自由）
- 規格 大きさは4号から10号までとし、額装して展示できるものとします。作品の天地を表示し、作品の裏に住所・氏名・画題を明記してください。
- 応募方法 応募は、別紙応募票（グريمの館にて配付）に必要事項を記入し、作品搬入日に会場に持参してください。出品料は無料です。また、応募点数は一人2点以内とします。
- 搬入 1月26日（土）・27日（日） 午前10時～午後4時
- 審査員 渡辺安友（院展特待、宇都宮大学名誉教授）、杉山吉伸（光風会会員、日展会員）、中野 永（野木町教育長、元石橋中学校校長）、渡辺正巳（光風会会員） 敬称略・順不同
- 展覧会 この展覧会は、2月9日（土）～2月17日（日）の期間、第23回企画展「第7回グريم絵画展及び第8回グريم童話賞入賞作品展」としてグريمの館多目的ホールで開催します。その他詳細につきましては、財団法人グريمの里いしばし（☎52-1180）までお問い合わせください。